

空港からの「広域的な観光型乗合タクシー」による利用転換実証実験の概要
(実施期間:平成 16 年度～17 年度)

【背景】

遠方から秋田への玄関口である秋田空港は、最寄りの新幹線駅である JR 秋田駅から 24 km も離れており、多くの観光客にとって目的地までスムーズにアクセスできる手段が極めて乏しいものとなっている。それによって秋田で潜在的なニーズがあるにもかかわらず、観光地への訪問をあきらめてしまったり、やむを得ずレンタカーなどの個別の交通機関を使ったり、目的となる観光地とは逆の方向にある秋田駅までもどることを余儀なくされるなど無駄な経費と時間を費やしている。また、秋田の観光地は豊かな自然と佇まいが観光資源そのものとなっているため、大量の自家用車の流入による環境の悪化も問題となっている。よって秋田県の観光振興の課題として、貴重な観光資源を保全しつつ、二次交通アクセスをいかに促進させていくかが重要なポイントとなっている。

【目的】

こうした事情を受けて地元観光業者や観光協会などで作る「秋田二次アクセスを進める会」が秋田空港から角館・田沢湖・乳頭温泉郷などの観光地において試行的に環境にやさしい BDF 燃料(使用済みの食用油)を使用した乗合タクシー(「秋田エアポートライナー」)を企画して運行させ、大変好評を得ることができた。

よってこのほどそれらをさらに拡大させ、県内各地の主要観光地を全て結ぶとともに、インターネットを使った一元的な予約システムを整備して利便性を向上させ、本格的に運行しようとするものである。

【主な内容】

秋田エアポートライナーの運行

秋田空港から主な観光地まで乗合による安価なジャンボタクシーを運行して、費用や時間の軽減を図り、空港を利用する観光客の利便性を向上させ、レンタカーや自家用車などの個別輸送からの利用転換を図る。

エアポートライナーや宿泊等の予約・配車・販売・顧客管理が可能となる一元的なシステムの導入

テーマや施設を入力すると、エアポートライナー及びそのルート周辺の宿や観光ガイド等の予約や空車状況の表示、お土産品等の販売、配車業務、顧客管理が可能となる一元的なシステムを導入して利用者の利便性を図る。

BDF 燃料の利用

観光客や観光業者が環境保護の意識を持ち、自ら参加して天ぷら油などの廃油を回収し、それを精製して作られる環境にやさしく、サステナブルな BDF 燃料をすべての車で使用して、観光地における環境資源の保護をすすめる。

主要実施路線

秋田空港より全ての主要観光地を結んで運行
男鹿温泉 角館、田沢湖、乳頭 玉川温泉 能代・白神 小安峡・秋の宮 象潟・鳥海 十和田・八幡平等

秋田エアポートライナー系統図

